

第14回産業振興ビジョン協議会における発言に対する本市対応内容

資料1

	カテゴリー	担当係	発言要旨	対応内容
1	小規模事業者支援	産業政策係	産業振興ビジョンにおいて、小規模事業者支援に特化した項目を設定していただきたい。	改定ビジョンの戦略1-⑥に新たに項目を設定する。具体的には、小規模事業者精通する商工会議所や商工会の経営指導員と定期的に意見交換を行いながら、本市の小規模事業者支援施策を検討するとともに、本市の支援施策を経営指導員から事業者へ周知することで、利用の促進を図っていききたい。
2	施策の周知	産業政策係	本市の施策が十分に事業者へ周知されていないように感じる。周知方法について、検討していただきたい。	既存の周知方法（HP、糸都等）に加え、戦略1-⑥に設けた商工会議所及び商工会との連携により周知を図りたい。また、事業者向けの支援メニュー説明会の実施についても検討したい。
3	製品開発	産業政策係	製品開発にかかる支援施策について、補助事業だけでなく、各種支援機関と連携した支援施策について検討していただきたい。	補助制度利用の如何にかかわらず、御用聞き型企業訪問を経由して、必要に応じて商工会議所や前橋工科大学等と連携させていただいている。さらなる連携を進めていくため、戦略2に追加し、今後も積極的に連携したいと考えている。
4	製品開発	産業政策係	平成28年度まで公募型共同研究にかかる補助事業があったが、事業者が研究開発できる支援施策を検討していただきたい。	製品開発系補助金に関して、全てのメニューで対象経費として調査研究委託費を認めている。今後ともご活用いただきたいと考えている。
5	創業支援	産業政策係	創業者や創業支援機関に対し、本市の創業支援施策についてのヒアリングやアンケートを実施し、今後の施策の検討に活用していただきたい。	毎年1月に創業サポート総合制度利用者に対してアンケートを実施し、創業支援施策の検討に活用している。これに加えて、各種施策の実施時においても創業者及び支援機関に対するヒアリング等を行い、よりニーズのある創業支援施策の展開ができるよう努めてまいりたい。
6	ビジョン	産業政策係	本市における支援施策だけでは、財源等に限界があることから、国や県等の支援施策を活用した支援を行うべきである。	改定ビジョンの戦略1-⑦に新たに項目を設定する。具体的には、国や県、各種支援機関と定期的に情報交換を行いながら、支援メニューを整理し、包括的に事業者を支援していききたい。
7	ビジョン	産業政策係	ビジョンの概要版にも具体的な施策を組み込むことで、事業者により浸透すると考える。	可能な限り具体的な施策を組み込みたいと考えているが、産業振興ビジョンの概要版は、産業振興の方向性を示すもので、個別具体的な施策については、各年度の産業サポートガイド等により周知を図っていききたい。
8	補助金	産業政策係	1月に受付される人財スキルアップ補助金や見本市展示会補助金について、申請期間の延長や、申請時期の変更を検討していただきたい。	①申請書式については、国等の補助金に比べ簡略化されており、比較的申請が容易であること、②同書式については、年度当初から本市ホームページに掲載されており、事前準備が可能であることから、現行スケジュールにて対応をお願いしたい。
9	見本市展示会補助金	産業政策係	見本市展示会補助金について、製造業だけでなく、商業も補助対象としていただきたい。	国際見本市各種展示会等出展補助金については製造業だけを対象としておらず、商業も補助の対象としている。卸売業等自社製造を行っていない業種に関しても他社製造の商品に対して一部を自社で構成を行い、販売権を有している商品の取り扱いは対象となる。
10	工業団地	企業立地推進室	高崎や伊勢崎における国道354号沿いの工業団地に多数の企業が進出している。本市においても、即効性のある施策を実施していただきたい。	現在「西善・中内地区」と「駒寄SIC周辺」の2か所において新産業団地開発に取り組んでる。「西善・中内地区」は令和2年度中の公募開始を目指して準備を進めている。

	カテゴリー	担当係	発言要旨	対応内容
11	Uターン	雇用促進係	本市出身で首都圏の大手企業で働く中堅社員が、家庭の事情等で本市にUターンを検討しているといった話を聞くことがある。企業とUターン希望者をマッチングさせるような施策を検討していただきたい。	県内企業とUターン希望者の交流会や、Uターン相談会等のイベントを群馬県が都内や県内で実施しており、前橋市としてもイベントに参加するなどしている。今後も移住支援金制度を含め、県と連携して進めていきたいと考えている。
12	氷河期世代の雇用支援	雇用促進係	女性、高齢者、障がい者に次いで、人材確保のターゲットとなるのは、氷河期世代であると考えている。本市においても、氷河期世代の就職支援について検討していただきたい。	氷河期世代の就職支援については今後の重要な課題であると認識しているため、まずはぐんま若者サポートステーションとの連携による取組みができないか、個別に相談させていただきたい。
13	ミライバシ	雇用促進係	ミライバシについて、参加する高校生の意欲を喚起するような方法を検討するべきである。	授業の中で事前学習の時間を設け、生徒が興味のある企業や関わりのある学問を選びスケジュールを立てて当日を迎えられるようにしているが、訪問企業を調べるところまでは授業の中で時間が取れず、生徒の自主性に任せていたことから、当日の意欲も生徒によって差が出たと考える。高校生の意欲を喚起して当日の効果を更に高めるために、事前学習の内容の改善を図っていきたい。
14	ミライバシ	雇用促進係	ミライバシの実施時期についても再検討が必要だと考える。	平日開催とし、授業の中で事前学習から事後学習まで一貫して取り組める仕組みをとることで、参加人数を確保するとともに事業効果を高めているが、開催時期については各高校の年間カリキュラムの中で組み込める時期を調整し決定している。高校生が1・2年生の早い段階で仕事と学びのつながりや広がりを知り、将来的なUターン・地元就職につなげることが本事業の目的であるため、企業の採用の時期とは直接結び付くものではないと考える。